

**1、鎌倉の町の地面の下には何があるだろうか？**

さて、鎌倉時代というと、何が思いうかびますか。

たいていは、武士が政治をにぎったこと、鎌倉が都だったことと、モンゴル帝国が日本を攻めてきたことの三つを勉強するでしょう。

しかし、それだけでは、鎌倉時代の人々のようすを思いうかべることはむずかしいかもしれません。そこで、人々の生活に焦点を当てて、みなさんにぜひ鎌倉時代の都のようすを紹介したいと思います。

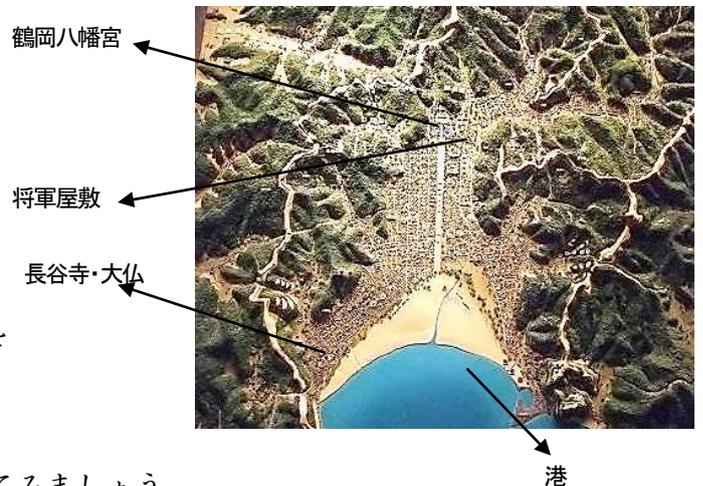
実は、それを調べるのに、とても鎌倉は有利な町なのです。

鎌倉は、まわりを低い山に囲まれ、水がいたるところからわきでて、たくさんの井戸が作られるくらい（今も使われています）、水が豊かな土地です。そのため、鎌倉市の地面の下には、多くの遺物が水につかったまま、千年近くの間、そのままの形で残されているのです。

では、まず予想してみましょう。地面の下を掘ってみたら、鎌倉の町の下から、どんなものが発掘されて出てくるでしょうか。

実は、鎌倉の町の中で、発掘されているのは、全体のまだ十分の一にもなっていません。

これから発掘が進めば、皆さんが予想した物が出てくる可能性もあります。ですから、まちがいを恐れずに、鎌倉時代のどんな物が、地面の下から発掘で出てきているか、予想して5個くらい書いてみましょう。



発掘して出てきた物の予想

では実際に掘りだされている物にはどんな物があるか、一つ一つ見ていきましょう。

## A 食べ物に関する物

まず、実物が発見されています。黒くこげているのは、お供えしたあと、燃やした物のようです。



鎌倉市内の各遺跡から炭化して出土した穀物。上段左から、大豆、米、粟ほか。下段左から、小豆、米、小麦、大麦。

わからない人もいるので、ちょっと解説をしておきましょう。

大豆＝節分の時に、鬼は外と言って、まく豆で、この頃は、味噌に使われていたようです。

小麦＝これは、うどんのように、粉にして食べる穀物です。

大麦＝ビールの原料ですが、この時代は他の材料がないのでおかゆにして食べたと思われる。

小豆＝あずきと読み、あんこの原料ですが、この時代は砂糖が無いのであんこにはなりません。

麦類は、主食の一部として、豆類は、栄養価の高いたんぱく質の物として、どちらも、煮て食べたものと思われます。他にも、動物の骨(イノシシ、鹿、いるか、鳥の骨など)、魚の骨、うにのとげ、アワビのからなど・・・たくさん…



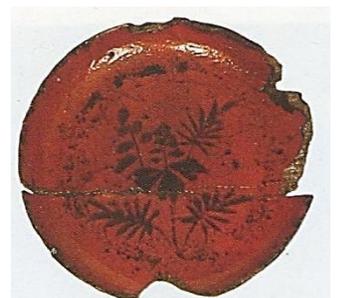
次に、食べ物を食べる時に使う道具の一部です。



まず、おはし。土器(かわらけ)は、宴会の時に使われ、使い捨ての食器として溝にまとめて捨てられました。その数たるやおそろしいほど。

箸4万本、かわらけ2万6千枚、それだけ食器を作る職人さんたちと、工房、そして森があったらうと想像されます。

豪華な食器としては、漆塗りのお椀がありますし、中国製の陶磁器も盛んに輸入されていました。左の二つ器の赤い模様は何でしょうか。二つとも、大変おめでたい柄です。あててみてください。



1000年近くたってもこの美しい赤の色が残っていることに驚きませんか？

何の模様かという、答えは、中国の陶磁器のかけらは、紅白の鯉の模様、お椀は鶴の模様です。

**B** 次に、着るものに関する物。

着る物は、なかなか残りにくいのですが、

まずこの青い物は何かわかりますか。

武士がかぶる帽子=烏帽子です。



この鮮やかな色を見てください。こんな美しい色の帽子を武士の偉い人々がかぶっていたとは、…ちょっと驚くでしょう。そして、この色は、発掘直後の色で、空気に触れると、どんどん色が変わっていくそうです。発掘した瞬間を写したもので、写真の中だけに残っている色です。

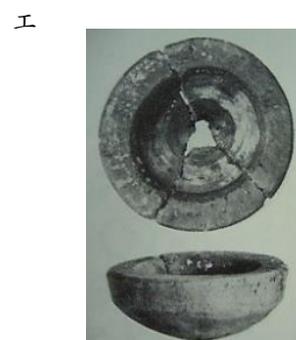
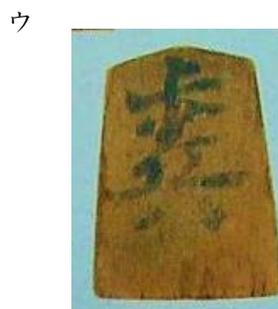


他には、クシと下駄。

これも、昔の人々が髪をとかし、はだしではいた物なのだと思います、誰が使ったものなのか、不思議な感じがしませんか。もう一つ、木の薄い板で、かまぼこの形のような物が、5千枚も発見されていますが、これは、草履の下に編みこんで、丈夫にしたものだそうです。5千枚ということはぞうり屋さんが、商売で、用意した物でしょうか。

**C** 遊びの道具に関する物。

今と変わらない遊び道具が見つかっています。これらは何か、当ててみましょう。



ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---

答えは左から、サイコロ、操り人形、将棋の駒(歩)、コマです。

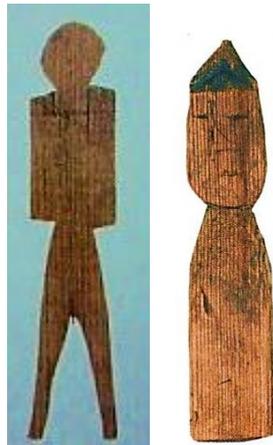
同じサイコロでも、不思議なサイコロがあります。このさいころの

どんなどころが不思議なのか、推理して当ててみてください。答えは先生に聞こう。



## D 最後に他のいろいろな物

他にも色々な物が発掘されていますが、次の物は何だかわかりますか。



左の写真は、海岸から掘り出された物。誰か最初に当てた人がいたでしょう。

そう、人骨です。ここは墓地なのです。でも、お棺の中に納められたというより、そのまま埋葬された様子です。

まんなかは、人形(にんぎょう)ではなく人形(ひとがた)です。けがれを流すために、人の形にして、川や水辺に流した物です。これで、病気を治したり、呪いを消すことができると考えられました。

右の写真は、お金です。大量に発見されていますが、これは、全部中国(当時の宋)から輸入したお金です。どちらかという、商売にも使われましたが、おまじないの力があると考えられて、町角やはずれに、埋められたことも多かったようです。

## E 他に皆さんが予想した物について

たぶん、みなさんが予想した物の中で、武器や刀、よろいが出てこなかったのが、意外だと思うでしょう。でも、武器類は、高価な実用品だったために、捨てることはせず、もし、武士が戦争で死んだ後にも、その刀やよろいは、他の人が手に入れて使ったので、地面の下からは、ほとんど発見されないのだそうです。皆さんも、刀が落ちていたら、今でも拾うと思いませんか。今でも刀は高価な物ですから、当時してみれば、手に入れたら、大事に手入れをして使うでしょうね。

## 2 鎌倉時代の町のように当時の法律から想像しよう。

昔のことを調べるのに、いつも考古学(発掘する学問)と、歴史学(当時の文書を研究する学問)とが大切だと、言われています。

最初に、考古学の方の証拠から、鎌倉時代の町のように見てみたので、次に、当時の文書から、鎌倉の町のように調べてみましょう。

ただ、文章を読むだけではつまらないので、クイズに挑戦してみましょう。

### 鎌倉都クイズ

①鎌倉時代に、次のような法律があったか無かったか、○×で答えてみましょう。

- a( )鎌倉の町の中では、武士だけが馬に乗ってよい。
- b( )ばくち(ギャンブル)は、禁止する。
- c( )道路に牛をつないではいけない。
- d( )病人やみなしごは、お寺に連れて行くべし。
- e( )女性を集めて騒<sup>さわ</sup>いだり、酒を飲むお坊さんの家はこわしてよい。追放せよ。

②同じ法律の中に、「“大袋”<sup>おおぶくろ</sup>という職業の人を追放する」という文章があります。

大袋とは、いったいどんな人のことを言うのでしょうか。

( )

③法律の中に、「捨ててはいけないもの」という部分があります。どんな物を道路に捨ててはいけないのでしょうか。四つ書いてください。

( ) ( ) ( ) ( )

さて、正解は何でしょうか？

こうした内容が載っているのは、鎌倉時代に作られた「関東新制条々」という法律です。

まず正解を紹介しましょう。

①a=○、b=○、c=○、d=○、e=○、そう、全部○です。

②答えは、「人さらい」です。誘拐して、人を売る職業です。

③捨ててはいけない物は、

病人、みなしご、死体、牛や馬の死体、です。

どうでしたか？ 何問正解しましたか？

では、この答えについて説明しましょう。

\*農民、商人、職人のような人たちは、特に鎌倉の都の中では、馬に乗れませんでした。

これらの法律があったということは、逆に、こういうことがとても多かったようすを表わしています。

バクチが流行り、念仏する人が、大きすぎたり、牛が道につながれて、病人や子どもが道ばたに、たくさんいたらしいのです。

\*大袋は人さらいのことです。昼間でも袋に女の人や子どもを入れて、さらって行って売る。売られた

人は遠くで働かされ、二度と家族とは会えない・・・そんなことが無いように、町では「保(ほう)」

という役所の武士たちが、警察の代わりをして見回っていたそうです。

\*実は、町の溝(どぶ)からいくつも人骨が捨てられたように出てきます。これは今から考えると、と

ても不思議ですが、溝や、川に捨てることによって、けがれたものを遠ざける、そんな考え方があっ

たようです。人々は、まじないにたよって暮らしていました。私たちでも、おみくじや運勢を調べたり

することがありますね。当時の人々は、人間の力の及ばないことに怖れを感じ(伝染病や死です)、

なるべく悪いことが起こらないように、そして、病気ならば治るように、こうした人形(ひとがた)に

のろいやけがれを移して、川に流し、祈ったようです。お金もまじないに使われた時もあります。

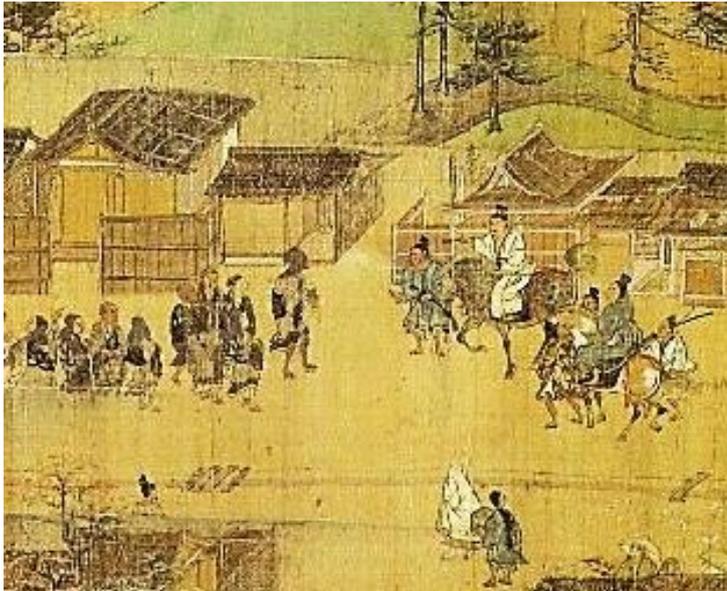
### 3 鎌倉の都のようすがわかるものは、他に無いだろうか。

実は、おもしろい記録があります。一つは、「一遍上人絵伝」と、「東関紀行」・「とわずがたり」

「海道記」です。最初の記録は絵巻物ですから鎌倉の一部のようすが絵に描かれています。

あとの三冊には、京都から鎌倉へ旅をしてきて、その違いや驚いた様子などが、旅行の日記として書かれています。

◆まず、一遍上人絵伝を見てください。



鎌倉の入口で、北条氏執権と一遍というお坊さんが、話し合っているところです。

クイズのように、執権という位の高い武士たちだけが馬に乗っています。都の入口だからです。

お坊さんの集団をどういうつもりで鎌倉に来たのか、厳しく聞いているところです。

発掘で出てきた武士の帽子、烏帽子も見える

でしょう。鎌倉の一番北側なので、道沿いに、小さな家が並んでいます。しかし、この一枚の絵だけでは、なかなかわかりません。

◆つぎに、日記の中から、当時の都のようすを思い描いてみましょう。

まず、みなさんもよく知る鎌倉の大仏と鶴岡八幡宮について書かれた文章です。

実は、鶴岡八幡宮も、大仏も、鎌倉時代から造られていました。

\*大仏について

阿弥陀の仏像を作っていると聞いたので、由比の浜にお参りに行った。定光上人という人が寄付を集めて仏像を造り、お堂も建てて、ほとんどでき上がっている。その仏像は大きくて、雲の中に入りそう。百毫(びやくごう)額にあるほくろのよう(な物)は、満月のように光っている。奈良の大仏に比べると、半分ぐらいの高さだ。それで、奈良の物は金銅、鎌倉は、木でできている。



\*八幡宮について

鶴岡に参拝した。赤い垣根で、真っ白い木綿の飾りがお供えしてあって、それが風にたなびき、銀の飾り、錦の布も風に広がっている。巫女さんのうたの声、お坊さんがお経を読む声も聞こえる。



他の鎌倉の地域のようにも日記に書かれています。

＊將軍の屋敷（幕府）について

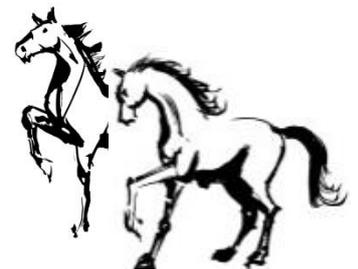
そつと將軍のお住まいをのぞいてみると、花のように美しいお堂が開いていた。スイレンの花が咲きはこつている。石畳の石が、玉のように輝いている。ウグイスのような美しい女の人の声が聞え、門の前で、たくさんの馬のいななきが聞こえ、市場のようだ。

＊港（人口に馬を作る＝和賀江島）について

由比の浜についた。数百の船がつないであつて、京都の近くの港に似ている。

＊鎌倉のたくさんのお寺について

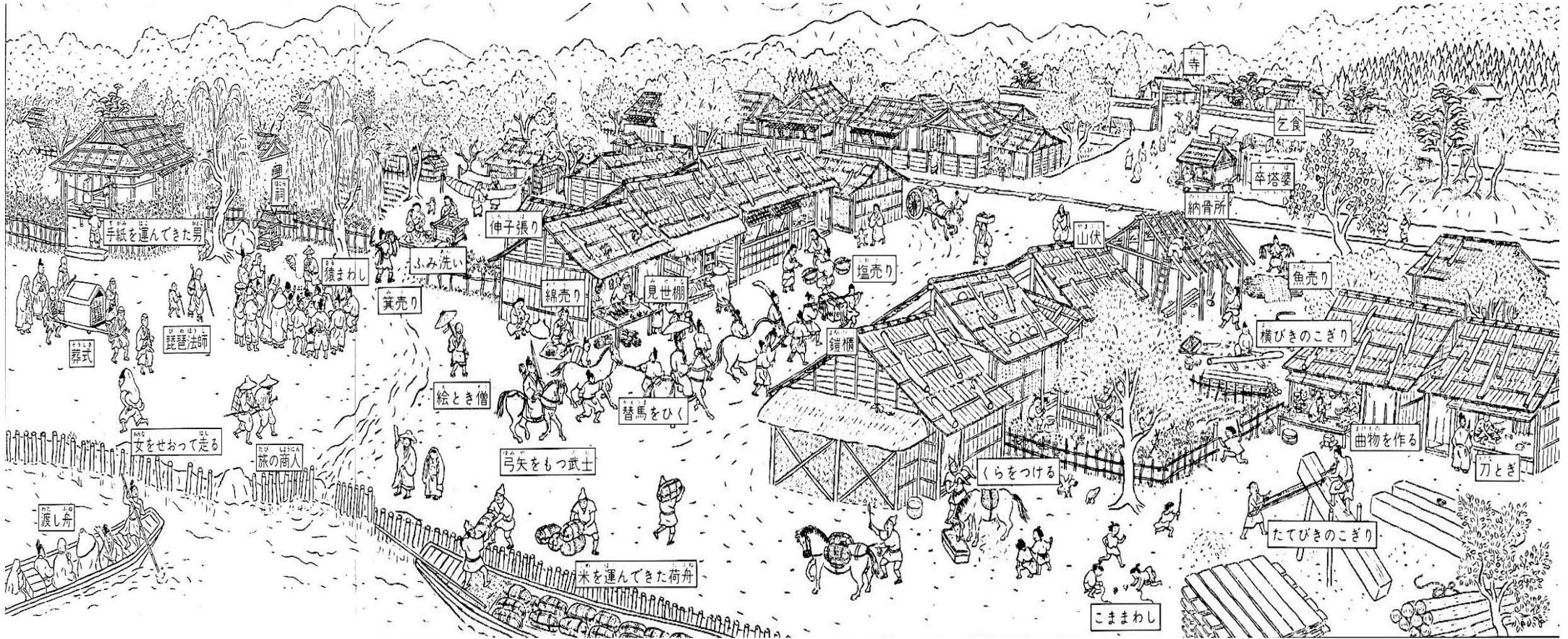
岩がけわしい所をけずつて、お寺が作られ、中国から来たお坊さんが修業をしている。將軍以外の人々も、お寺を作り、松を植えたりしている。



さて、こうして、発掘された遺物や当時の書物から、鎌倉時代の都のようすを説明してきましたが、みなさんの頭の中に、当時の人々の暮らしているようすは、イメージできていますでしょうか。

実は、「絵本・日本の歴史」という本の中に、様々な資料をもとにして描かれた、鎌倉時代の町のようすが出ています。それを見てみましょう。実際は、カラーですが、白黒の説明資料から見ていきましょう。

4 次の絵の中から、いろいろなことを発見しよう





武士が政治を動かすようになると、人びとの生活は活気をおびました。



港や門前(神社や寺のまわり)に町ができてにぎわい、各地の商品がゆきかいました。

さて、いろいろ、鎌倉の町のように勉強してきました。(大袋みたいな人、お葬式のように、お寺の前の乞食、猿回しなど、発見できましたか?)

こうしたことをもとに、鎌倉の町を訪ねてみませんか?

歩く時には、地面の下には、そうした鎌倉の町が眠っていることを想像しながら、歩いてみてください。